



第47回企画展(会期：平成30年9月11日(火)～12月2日(日))

## 発掘速報展2018

—近年の調査成果②—

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

### 大宰府政庁周辺官衙跡蔵司地区

(大宰府史跡第230次調査)

所在：大宰府市観世音寺  
時代：奈良・平安時代(8～10世紀)

九州歴史資料館では、大宰府政庁跡西側の蔵司の地名が残る丘陵を、平成21年度から継続的に調査しています。

平成28～29年度は、蔵司地区の中心的建物である大型礎石建物の東側の平坦地において、蔵司地区の官衙跡の構造解明に向けた重点調査を実施しました。

調査では、新たに南北に並ぶ総柱の瓦葺きの礎石建物群2棟を発見しました。いずれの建物も南北5間×東西3間、柱間は桁間・梁間ともに2.4m(8尺)で、床面積86.4㎡の規模をはかります。この2棟は同規模・同構造の倉庫と考えられ、柱筋が通るなどの規則的な配置であることから、同時期に倉庫群を形成していた可能性が高いとみられます。またこれまで他の周辺官衙跡でみつかった倉庫建物よりも規模が大きいことが特徴です。以上のことから、今回発見された倉庫群は、大宰府の財政的機能を司った官衙「蔵司」に関連する施設の一部である可能性が考えられます。

出土した土器や瓦から、いずれも8世紀代に造営され、10世紀代に廃絶したとみられます。

(文化財調査室 大庭孝夫)



蔵司地区・総柱倉庫建物SB5110



被熱した鉄鍬の束(蔵司地区)



呪符木札(彼岸田遺跡)



### ひがんだ 彼岸田遺跡

所在：筑後市島田字彼岸田  
時代：室町時代(14～15世紀)

彼岸田遺跡は、筑後川の一支流である花宗川左岸の沖積低地(標高5.4m)に立地します。下水終末処理場建設に伴い、平成12～13年度に発掘調査を実施しました。掘立柱建物2棟、土坑2基、埋甕1基、溝10条などの15世紀代を主体とする遺構を確認しました。1号・9号溝は、長さ120m以上の大規模なもので、方二町(約200m四方)と推測される遺跡全体を囲む外郭施設と考えられます。2号溝は東西長65mで、溝の内部に建物・土坑・備前焼の埋甕等の遺構が存在することから、内部施設を囲む区画溝とみられ、漆塗り椀・三方・篋・白・下駄・唐鋤・馬鍬・焼けた建築部材などの豊富な木製品の他に呪符木札が出土しています。他に、舶載陶磁器(青磁碗・白磁皿)、石製品(硯・茶臼・砥石・五輪塔)、銅製飾金具などの特殊遺物があります。

筑後市島田地区は、中世においては水田天満宮の荘園(水田荘)にあたり、花宗川を挟んで対岸の広川荘(熊野社領)と頻りに土地争いを繰り返していました。当遺跡にみられる二重の溝(堀)は、居館を防御するための施設で、彼岸田遺跡は水田荘を支配した大鳥居氏が広川荘に対抗するため築造した、前線基地的性格を有する居館遺跡と考えられます。

(学芸調査室 小田和利)



彼岸田遺跡全景



漆椀(彼岸田遺跡)

※保存処理中のため、展示していません。

## 本町遺跡

所在：柳川市大字本町  
時代：江戸時代～明治時代(18～19世紀)

遺跡は柳川市の中心部にある、柳河(柳川)城の武士の居住区北西端に位置しています。発掘地点からは柳川藩の中級武士である武家屋敷と辻御門横の牢屋の一部が発見されました。注目される遺構は、屋敷地内から発見された「溜井」です。「溜井」は井戸の代わりに水を溜めて利用するもので、水門を設けて水量を調整していました。幕末から明治初期の『御家中絵図』には、堀割に沿って緑色の不整形な文様が並んで描かれています。これらは簡略化した低木のようなのですが、この位置から「溜井」が発見されました。『御家中絵図』に描かれた溜井の配置を見ると、幅の広い堀割に面している武家屋敷にのみ描かれていることから、籠城した場合に、堀割の対岸の敵と対峙しながら安全に水を確保するために、武家屋敷に設置と維持管理が義務付けられたものと考えられます。

そして明治2(1870)年、柳川藩の藩校「伝習館」はこの地に「文武館」として再建され、「評定所」が置かれましたが、廃藩置県により藩校としての「文武館」は廃校となりました。今回の調査ではそれらの建物跡も発見されました。そして、文武館廃校も教育機関が置かれ続け、現在の福岡県立伝習館高校へと引き継がれています。  
(学芸調査室 秦憲二)



本町遺跡全景



VOC銘染付皿(上町遺跡)

## かみまち 上町遺跡

所在：柳川市上町  
時代：江戸時代(17～19世紀)

上町遺跡第2次調査地点は柳河(柳川)城の北端、かつての出橋御門いでのはしごもんの南に位置にあたり、江戸時代からの町割区画を残しています。調査の結果、16世紀後半～19世紀にかけて4層の遺構面に、建物跡・柵列、土坑、溝などの遺構を検出し、近世陶磁器を中心にパンコンテナ70箱以上の遺物が出土しました。

本遺跡の特徴は、近世初期の国内外の陶磁器が相当数出土しています。国産品では、まず初期伊万里があり、有田で初めて染付が作られる年代である1610年代に比定できる作品もあります。また、天目茶碗の形をした珍しい作品もあります。また、17世紀半ばのVOC(オランダ東インド会社)銘の入る皿や17世紀代の有田産の青磁があるのも面白いでしょう。

陶器では唐津焼が豊富で、17世紀前半代の鉄絵にはわざと器形をゆがませる作風のものもあります。また武雄地域で焼かれた三島手、刷毛目(古武雄)なども数多くあります。その他、筑前高取焼の水指など茶道具系統の作品、肥前の鍋島焼や筑後の朝妻焼あさづまなども出土しています。

国外の陶磁器では、朝鮮半島の白磁、中国・景德鎮しやうしやう窯・漳州窯の青花・龍泉窯の青磁などがあり、16世紀～17世紀の国内外の主要作品が集まる貴重な遺跡といえます。  
(学芸調査室 遠藤啓介)



「式番寮」「子番寮」木札(本町遺跡)  
※保存処理中のため、展示していません。



編集 発行：平成30年9月11日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>